

## 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 顎関節症患者におけるインプラント補綴の治療戦略

演者名 三村彰吾

日 付 2017年5月23日

keywords

1. インプラント補綴
2. 顎関節
3. 咬合再構成

### 抄 録

バーティカルストップが減少し咬合崩壊をきたした患者に対して、私たちは全顎的咬合再構成を行う場合がある。このような患者は咬合崩壊に伴い、顎関節部の変化が起こっていることもある。そのため、適切な顎位を求め、その顎位で咬合再構成することがこのSJCDの治療の流れである。

私は、全顎治療を行う際、初診時の顎関節の状態を把握することは、術中、術後の経過をみるにあたり大変重要であると考えている。また、インプラント補綴治療後も顎位が経時的に変化する症例もある。このため咬合調整を容易にできるよう考慮した補綴設計も重要であると考えている。

今回の症例は、66歳の女性で臼歯部の欠損を伴い、咬合崩壊をきたした患者で顎関節症状もあった。欠損部にインプラントを埋入後、バーティカルストップを回復して、顎頭安定位を求めた。その後、顎関節症状が消失したため、最終補綴に移行した。この症例をもとに私見を述べさせていただきます。